



2026 SUPER GT RACE REPORT

FUJI SPEEDWAY

Rd.4

8.1[sat] - 2[sun]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

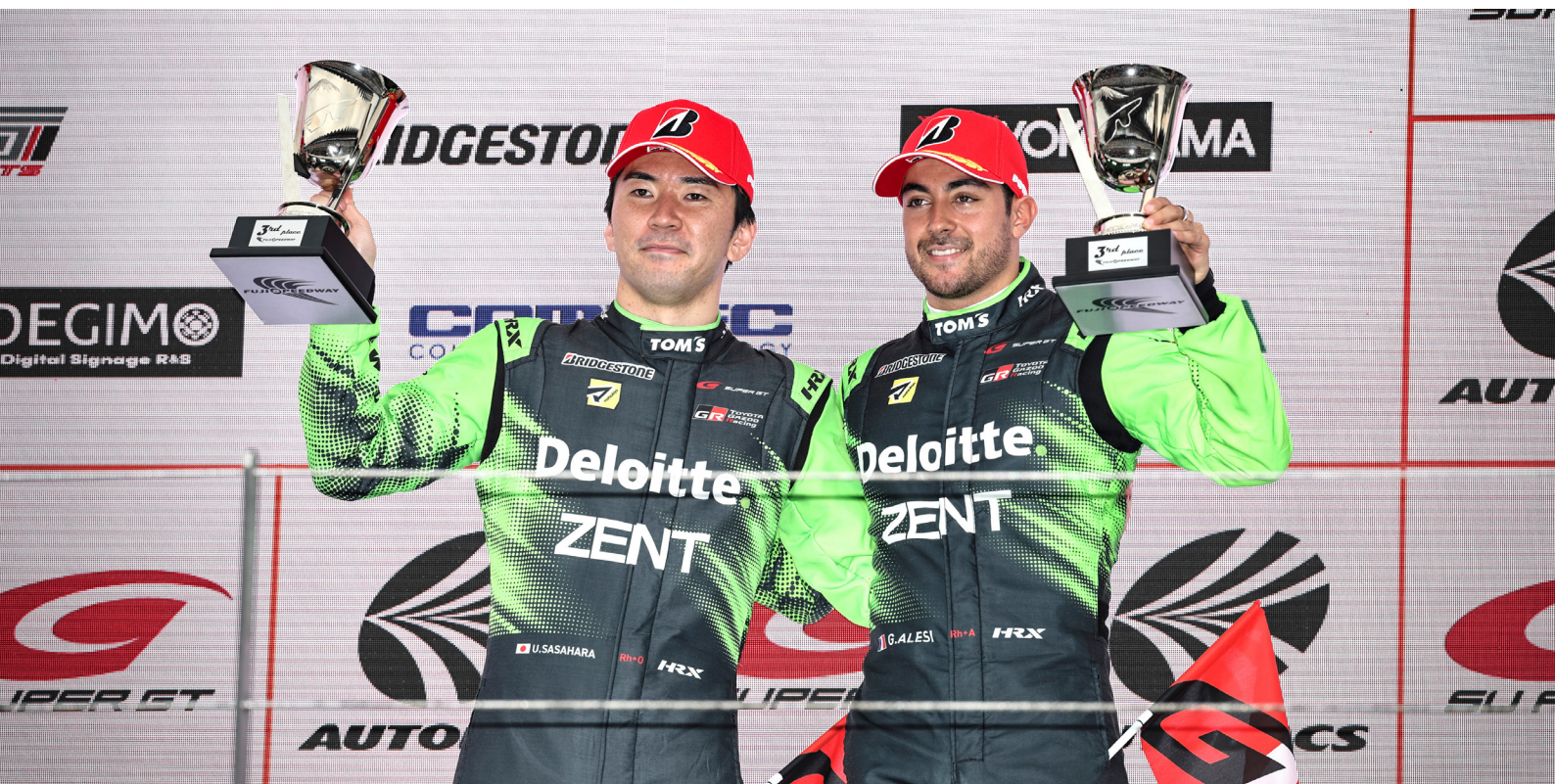
[weather] sat 晴れ sun 晴れ

[spectators] 56,400人 (sat 22,300人 sun 34,100人)

Rd.1	OKAYAMA International Circuit	APR 11 - 12
Rd.2	FUJI SPEEDWAY	MAY 3 - 4
Rd.3	Sepang International Circuit	JUN 20 - 21 *開催延期
Rd.4	FUJI SPEEDWAY	AUG 1 - 2
Rd.5	SUZUKA CIRCUIT	AUG 22 - 23
Rd.6	Sportsland SUGO	SEP 19 - 20
Rd.7	AUTOPOLIS	OCT 17 - 18
Rd.8	MOBILITY RESORT MOTEGI	NOV 7 - 8

TOM'S

開幕から続いた不運を乗り越え、
笹原とアレジが真夏の富士で力走。
3位表彰台を獲得し、次戦につなげる。



2026 AUTOBACS SUPER GT Round4「FUJI GT 300km RACE」が、8月1日・2日に富士スピードウェイで行われた。今季は開幕から2戦続けて不運による戦線離脱を余儀なくされた #37Deloitte TOM'S GR Supra（笹原右京／ジュリアーノ・アレジ）だが、3戦目となった富士大会では力強い走りを披露。最後まで優勝争いに絡む活躍をみせ、最終的に3位表彰台を獲得し、今シーズン初となるポイントと表彰台を獲得した。



 37 TGR TEAM Deloitte TOM'S Deloitte 笹原 右京 UKYO SASAHARA ジュリアーノ・アレジ GIULIANO ALESI		RESULTS Round 4 QUALIFYING 1 SASAHARA P4/1'27.764 QUALIFYING 2 ALESI P6/1'27.818 RACE / Fastest Lap SASAHARA 1'30.700 ALESI 1'30.824	予選 6 位 決勝 3 位 Driver Standings 10 位 Team Standings 12 位
---	--	---	---

QUALIFYING

天候:晴れ | 気温:32℃ | 路面温度:44℃

6月に予定されていた Round3 マレーシア大会の延期に伴い、前戦から約3ヶ月のインターバルを経て、今季の3戦目として開催された。37号車は、Round1の岡山、Round2の富士ともに速さはあるながら、不運なトラブルにより戦線離脱を余儀なくされており、今大会は何としても結果を残すという意気込みで臨んだ。サクセスウェイトがライバルより軽い状態にあることもあり、公式練習から上位につける走りを披露。午後の公式予選では、Q1を担当した笹原が1分27秒764のベストタイムで、4番手で通過を果たすと、Q2のアレジも渾身のタイムアタックを決め、1分27秒818のベストタイムで6番手につけた。約3ヶ月のインターバルの間にライバルも進化を遂げていたが、持ち前のレーススペースの良さで、決勝では逆転トップを狙う。



RACE

天候:晴れ時々雨 | 気温:31℃ | 路面温度:36℃

66周で争われる決勝レースは、直前に降った雨の影響により、急きょセーフティカー先導で開始された。5周目にセーフティカーがピットに戻り、全車が加速をはじめたが、メインストレートでGT500クラスの複数台が絡むアクシデントが発生。そのうちの1台が大破したため、レースは赤旗中断となった。約35分の中断ののちにレースが再開されると、6番グリッドの37号車は、ピットを遅らせる作戦で、一時トップに浮上。そこでライバルを上回るペースでタイムを稼ぎ、29周目にアレジに交代。2番手でコース復帰を果たした。

その後も、トップを走るライバルに少しずつ近づき、優勝も見える状況となったが、後ろから迫ってきたライバルも手強く、59周目に先行を許した。アレジは諦めずにライバルを追い続け、最後はトップから1.4秒差の3位でフィニッシュ。今季初表彰台となったが、優勝が見えていただけに、2人とも悔しさをにじませていた。





Driver

笹原 右京

本当に悔しいです。本音を言うと今回は勝てたと思えるくらい、クルマも良かったですし、ペースも良かったです。自分のスティントを振り返っても、あれ以上はできないくらいの内容でした。コース上でオーバーテイクもできましたし、ロスなく進めることができました。最終的に3位で、トップとの差を見ると悔しさしかないですね。



Driver

ジュリアーノ・アレジ

もちろん悔しい部分もあります。詳しい原因は分かっていないですけど、最後の方はピックアップとかの問題もあって、ペースをなかなか上げることができなかったです。優勝したかった気持ちが大きかったので残念です。でも、次の鈴鹿もサクセスウェイトは軽い状態だから、勝てるチャンスはあると思います。そこで全ての要素をまとめて、優勝目指して頑張ります。



Team Director

ミハエル・クルム

今回の我々の目標は、まずゴールをすることでしたが、2位を走っていてトップに近づいていたので、優勝の期待もありました。ただ、終盤は少し苦しかった部分もあったので、その理由が何だったのかを分析しないといけません。いずれにしても、序盤の2戦がトラブルでポイントを獲れなかったことを考えると、この3位表彰台は良いことですが、本音を言うと悔しいです。



Team Principal

館 信秀

37号車にとっては、開幕からの2戦がトラブルで残念な思いをしたことを考えると、この結果を良ししたいと思います。もちろん優勝したい気持ちはありましたが、まずは今年達成できていなかったチェッカーフラッグを受けることを最低限の目標として、チームのみんなは頑張ってくれました。前半の笹原はもちろん、後半のジュリアーノもペース良く走ってくれました。最後はあと一歩だけだったけど本人は悔しいとは思いますが、この勢いを次戦につなげて、また良い結果を目指していきます。次戦もたくさんの応援を、よろしくお願いいたします。

Deloitte.

ZENT

アヲキヨ

TOYOTA
GAZOO
Racing

TGR-D

BRIDGESTONE

AUTHOR

OKANO
ExPress

BINGO

はうらいせん
www.houraisen.co.jp

POLAIRE

BRIDE

PORTS.CO.JP

S&D
TAMA GROUP

ENKEI

HRX

Mizuno

ThreeBond

MECHANIX WEAR

KRS